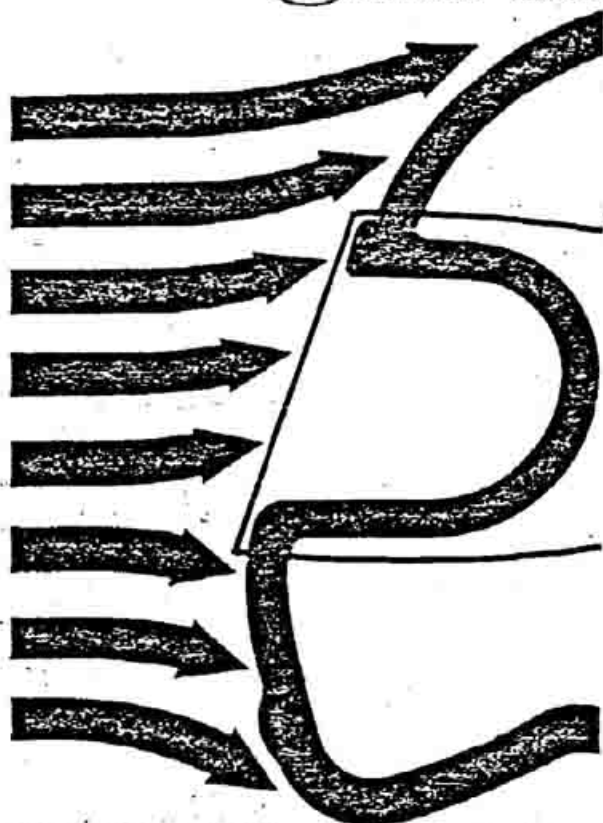


ARAI NEWS

Arai (株)新井広武 〒330城玉東大宮市東町2-12 ☎0486(41)3825~7

ヘルメットのリフトってご存知ですか？高速になると空気の流れでヘルメットが浮き上がってくるという、やっかいな代物です。もちろん、法定速度の80キロ以下では問題になることはありません。しかし、高速の世界では空気が何をしてくれるのかを知っておくことも話のタネになると思って取り上げました。バイクというのは全身に風を受けて走るものです。だから、ヘルメットにも当然風はあたりますが、そのあとが問題です。ヘルメットの上、横、下それぞれの空気の流れは全く異なるので



す。その結果、それぞれ流れる方向により圧力差が生じます。これがヘルメットのリフトが発生する由です。リフトの大小はヘルメットの形状によるものです。なかには150キロもだと、あまりのリフトのためにアゴひもでのを締め上げられるという恐ろしいヘルメットもあるのです。

④はレースとのかかわりが深く、また自分でも走って体験しているので、リフトには真剣に取り組んできました。まず最初に、レーシングカーのようにダウンフォースを発生するような形状にしようと考え、2年程前にプロトタイプを作りました。このヘルメットは前を低くして後方にはねあがったような形状で、空気が下側に入らないようにした、丁度近ごろのエアダムスカートを付けたシルエットカーのようなカッコいいものでした。ところが、それで走ってみてビックリしました。普通のヘルメットよりずっと大きなリフトが発生してしまうのです。考えてみれば空気を下側に流さない形状というのは、下側に路面があって空気の流入制限ができる自動車だからこそダウンフォースが発生するわけで、ヘルメットのように下側はオープン、

しかも体にあたった風まで吹き上げるようなものでは、上面の流速を上げるだけで、かえってリフトが増してしまうということがわかったのです。結局、そのカッコいいプロトタイプは採用されずに終わりました。企業秘密なので写真をお見せできないのは残念です。

その他、いろいろなプロトタイプを作ってはテストし、また世界中の変わった形状のヘルメットも購入してテストしてきました。そして今、自信をもっていえるのは、現在のディフレクター付モデルは、最もリフトの

少ないヘルメットの一つだということです。もちろん、ディフレクター付モデル以上のヘルメットをと取り組んでいるので、これより新しい形式のモデルも④から出てくるでしょう。しかし、それとて全てディフレクター付モデル以上に空気が優れているとは限りません。150キロプラスアルファで横を向いたときの頭のもっていかれ方からいけば、やはりRX-7かレブリカシリーズです。だから、一つの完成された形状をもつディフレクター付モデルは、いくら新型が出てきてもリファインメントを受けながら、本格派向けモデルとしての地位を保ち続けるでしょう。見せかけだけではない“本物”は、時を超えて新鮮さを保つもの。いい音楽のように。

ヘルメットのリフト。これは高速で風とまともに立ち向かったときの話。フェアリング付なら条件も変わってくるでしょうが、スネルクラスのヘルメットを選ぶハードなライダーには、是非知っておいていただきたい、④スネルヘルメットの一面です。そしてこのようなノーハウは、④の全ての製品に生き続けるでしょう。